姶良歴史ボランティア協会広報誌第７号　　発行日　平成21年６月11日(木)

# あいらの歴史と物語

発行責任者：姶良歴史ボランティア協会
会　長　橘　木　雅　晴
編　集　者：広報部長　竹之下　洲　一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県姶良郡姶良町東餅田498　姶良町歴史民俗資料館 TEL0995（65）1553

## 北山下地区史跡めぐりに参加して

竹之下　洲　一

初春のうららかな日、「森林＆史跡めぐりウォーキングin北山下地区」と題された催しに初めて参加しました。北山地区馬場のお寺境内に約60名の老若男女が集まり、開会行事の後、２コースに分かれ出発。途中、杉・竹林の中を歩いたり、地区の自治会の人々の説明を聞いたりしながら史跡めぐりをしました。

まず、中世の山城、下城跡があります。この城は甑氏により造られましたが。北山一帯には甑氏に関わりのある史跡が数多くあります。

次に、中世の終わりにこの地域の地頭に就任した梅北国兼関連の史跡がいくつかあります。秀吉に抵抗して殺された、国兼の七名の家臣の墓七ッ島、国兼を祭る梅北神社などです。この地域の人々に本当に親しまれている人物の一人です。

それから、島津義弘に関する史跡もよく見られます。その一つが義弘の家臣で北山の地に領地を与えられた小川氏の屋敷跡と、義弘公を祭った石祠であります。

以上が特に印象に残っているものです。

さらに、近・現代においても、人々の息吹を感じさせる場所があります。特に旧北山中学校の跡地に佇むとその感を強くします。近代的な北山伝承館や野外研修センターなどになって活用されています。

途中では地域の人々の温かいおもてなしをいただき、自然や歴史をたっぷり味わうことができました。

閉会行事では,準備していただいた昼食や,餅つき大会,抽選会など楽しく時を過ごしました。

## 木津志ウォークラリーに参加して

竹之内　和　仁

今日は４月５日、木津志ウォークラリーの日です。久しぶりに早起きして外を見ると、あいにくの雨です。木津志小学校跡に着くと、多くの参加者とスタッフが集まっていました。早速受付をすまし、山伏姿の勇壮なホラ貝の合図でいざ出陣。「親水公園」に向かいます。

先導の人が「このペースでいいですか」と歩く速さを調整します。周りを見回すと、私より年配の方々が歩いています。遅くして欲しいとは言えません。辛いウォークラリーになりそうです。

「親水公園」から「滝の神」に向かう途中、金山の採掘跡や、木津志の先祖は山内一豊に追われた長曽我部氏の家臣が、義弘公を頼って四国から移住してきたことなど、随所で分かりやすい説明があり、楽しく歩くことができました。

終盤に差し掛かり城野神社に到着。神社の由来を聞き、なるほどと感心しているころには、雨で足元はグチャグチャになり疲れも感じられ、体も冷えてきました。突然、化粧廻しを着けた力士が目に飛び込んできました。なんと女性の力士です。疲れも一気に吹っ飛び見入ってしまいました。相撲甚句を踊っています。これはアマゾネスか？”ウンダモシタ～ン”。地域興しのために30年程前から始められたとのこと、木津志のお母さんたちご苦労様でした。

いよいよ最終コーナーである出発地点に辿り着きました。ちょうど正午、子供たちの太鼓の生演奏を聴きながらの昼食。にくい演出です。昼飯が旨いこと。

今回のウォークラリーに参加でき、多くの人との出会いもあり歴史についての知識も増え、楽しい充実した一日を過ごす事が出来ました。

# 「歩き・み・ふれる歴史の道　白銀坂」特集
## （研修発表者報告）　5月9日（土）

### 脇元浦町　竹之内　和　仁

脇元浦町は、江戸時代の初めごろ作られた港町（漁村）です。元文 2 年(1737)、越前島津家が再興されたころ、重富麓に武家屋敷群が整備され、その後、延享 4 年(1747)ごろ、浦町の町割りが整備されたものと考えられます。

大口筋と平行に走る「下筋」(東側)・「上筋」(西側)と呼ばれている二本の小路があり、規模としては、東西 80m、南北 390mの区域に確認されます。

この地域は短冊形両側町で、道路に対して直角に商家が並び、間口は狭く奥行きの長い敷地となっています。浜へ降りる道は「大小路」と呼ばれ、海岸までの直線道路が現在も残っています。旧吉田街道と大口筋は、わずかな食い違いで交差して、大口筋が優先となっており、この様に食い違いとなっている場所は街道筋に散見されます。

このよう鍵状に折れる矩形を設ける目的は、物理的には、一旦往来の速度を緩めて街の往来の安全を確保することであり、戦術的には、敵の侵入を阻止することが考えられます。この様に脇元地区にも、江戸時代の街割が比較的よい状態で残っています。

### 御石山（島津金吾歳久）　佐土原 保子

今から 417 年前の元禄元年(1592)、歳久公は豊臣秀吉の怒りにふれ宮之城の領地への帰路、竜ヶ水で自害しました。公の首は脇元のここの井戸で洗い清められ、肥前の国名護屋城にいた秀吉に届けられ、首実検の後、京都一条の戻橋に晒(さら)されました。

地元脇元の人々は石を山のように積んで歳久公の霊を葬ったと云われ，いつしか御石山と呼ばれるようになりました。

歳久公は別名、御石様と呼ばれております。歳久公は自害される時に、中風のため刀を持つ事が出来ず、傍の石で自害せんとし、苦しい思いをしたと伝えられています。その時、「女のお産の時はさぞかし苦しい思いをする事であろう。自分の死後はこの苦しみを救ってやろう。」と云ったと伝えられています。

歳久公を祭った平松神社は、「武」の神様として、また「安産」の神様としても広く信仰されています。

### 白金酒造石蔵　竹之下　洲　一

白金酒造会社の創業は、今から 140 年程前の明治 2 年(1869)です。そのころ、この石蔵も建造され、西南戦争の時には西郷軍の陣屋にもなったそうです。現存最古の焼酎蔵で、平成 13 年 8 月には国の登録有形文化財となりました。

醸造の時期になりますと，石蔵の中では創業時と変わぬ製法で、焼酎の仕込みが行われています。

麹(こうじ)米・もろみ・蒸留の製造工程では原料・水の精選はもちろんのこと、室内の温度や湿度の変化にさほど左右されない石蔵の利点を生かしながらも、さらに、仕込みの時期になると杜氏さんは、夜も 2，3 時間ごとに起きて、麹米やもろみの様子を見ながらの作業を続けています。

広さ 100 ㎡余りの石蔵の床面には、巨大な甕壺(かめつぼ)が埋め込まれています。

プクッ、ポコポコ・・・・。もろみが発酵する音が聞こえてくるようです。

### 白銀坂第 2 展望所　藤 崎　幸 雄

「ナンノコレシキの坂」気張りすぎて、息が切れ切れになったころ、優しい木漏れ日が、暗灰色の石畳を照らし、そこに当然のごとく、山桜花の舞い散るその様の神々しさは、白銀坂を体感したものに与えられる御褒美であり、多くのリピーターを引きつける魅力となっています。

第 2 休憩所は脇元の登山口より道のり 900m、標高 170m、所要時間 30 分、七曲りの難所途中にあります。自然と歴史にふれあうことのできる絶景の地で、近辺に貝化石層があり、白銀山が 70 万年前に隆起した証拠です。

眼下には 2 万 5 千年前姶良カルデラ跡の錦江湾奥部、姶良町の市街地、強者共の夢跡の別府川や平安城跡、また、古代官道や近世街道の大口筋などが一望でき、かなたの隅日国境の霧島連山には天孫降臨で有名な高千穂の峰などの歴史を感じ、周りでは、春告鳥が身を震わせ、かすかなせせらぎの音など、ハイカーを元気づけてくれる、すばらしい場所となっています。

## 白 銀 坂

恒 吉　一 洋

今回は白銀坂の途中から、ＪＴの森「さくら見晴台」を巡って往復する「歩き・み・ふれる歴史の道」企画の初めてのウォーキングです。

このＪＴ(日本たばこ産業株式会社)の森への道は、平成20年に開設された総延長1100mにおよぶルートです。この見晴台からは、今まで見ることのできなかった桜島の景色が遠望で

きるようになりました。

白銀坂第２休憩所を出発してすぐ左折、「たてぼり坂」(700m)と名付けられた階段状の坂を約20分登ると「さくら見晴台」に到着です。

名前のごとく周囲に山桜の木があり、春先の開花時の美しさは見事だそうです。

この日の桜島や錦江湾の眺望は、霞がかかり鮮明ではないでしたが、それはそれでまた素晴らしい眺めでありました。みんな満足そうに、持参の弁当をおいしく食べることでした。

帰りは「くすの木坂」と名付けられた約400mの道を降り、白銀坂に出て、「布引の滝」を見学し下山しました。

ほとんどの参加者が初めて経験したコースでした。天気にも恵まれ充実した楽しいウォーキングを満喫した一日となりました。

# ガイド練習報告

## 石造寺院・岳扇山新照寺

坂 元　清 美

明治22年(1889)長期に耐える本堂をとの思いで信徒の協議の末建設に着手し，明治26年寺院として稀な石造本堂が完成しました。本堂の外観は，寄せ棟から真正面に伸びる葺き下ろしの屋根が美しく，四隅の切石は算木状(さんぎじょう)になり，5㎝程互いに突き出し，南側を除く３面には２か所で切石が積まれています。本堂内部は70畳の大広間（格子天井に門徒の家紋がはめ込まれている）と仏壇間に分かれ、親鸞・蓮如・聖徳太子の画像があります。

明治28年建造された正門の壮麗さに加え,頂部の反りに技術の確かさが見られ,通用門の門柱間には屋根型の石を載せ正門との対応がみられます。境内の南辺と西辺に流れる水路に沿って築かれた石塀も、屋敷風擁壁の上に尺角状の長石を３段に積み，その上に笠石が載っています。

本堂・正門・通用門・石塀の４件が国の登録文化財として平成20年4月 28 日登録されています。

## 住吉池周辺の史跡

芦 原　秀 仁

### 住吉神社

鈴木三郎政氏が、和銅元年(708)摂津国の住吉大明神を勧請し、創建された神社です。山田地区の黒島神社とともに、町内最古の神社です。社殿は当初、北東位の下高城(しもたかじょう)岡に創建されましたが、２回の遷座により現在にいたっています。境内には中興開祖の法印頼憲の歌碑、新原重志先生の顕彰碑などがあります。

また、住吉地区には約270年前、摂津国住吉神社の祭司、金山(かなやま)昌兼により伝授された町指定無形文化財の「金山踊り」が伝承されています。

### 住吉池

藺牟田池県立公園の一部で、約8200年前水蒸気爆発で形成された周囲3.2km、最大水深52mの円形湖です。春先は満面の水をたたえ、新緑の映える美しい池です。古くから農業用水池として多大な役割を果たし、堤には用水確保に苦労・努力した人たちの残した水神・記念碑などがあります。

また、竜神伝説（聖(ひじり)神社、大蛇、巨大錦鯉(にしきごい)）、西南戦争の弾薬投棄など探索豊かな所でもあります。

## 新館長の挨拶

姶良町歴史民俗資料館館長　尾口　義男

姶良町は、県本土央の平野部に位置しています。古くから薩摩と大隅を結び日向・肥後へと延びる幹線道路と、南海の島々に通じる交易路が交わる地域に位置したことから、南九州の交通と流通の重要拠点として栄えてきました。

室町・江戸時代には、大名島津氏の城下である鹿児島に隣り合わせの近接の地に位置したことから、全国に名を知られる多くの大名や武将等とも、深く関わりをもった土地です。そのために、姶良町は、県内でも有数の優れた歴史遺産や民俗文化財、伝統の行事・芸能・民芸などが豊富に残り伝わっている魅力にあふれた町でもあります。

誇れる町の歴史遺産や文化財等を、多くの人にどんどん知っていただき、楽しみ喜んでもらい、文化の振興のお役に立てるよう努めます。よろしくお願いいたします。

姶良町周辺の史跡紹介①

## 加治木町龍門司坂

濱口　純則

龍門司(たつもんじ)坂は、大口筋の一部で、加治木島津家が寛文12年(1635)に造り、元文6年(1741)に石敷きに整備された坂です。当初は1500m程あったと思われていますが、現在は幅平均4m、長さ486m程だけが苔むした石畳となって杉木立の中に残っているだけです。明治10年(1877)の西南戦争時、2月約6000名の薩軍の人々が、ここを通って熊本に向かいました。

平成18年7月28日に国の登録文化財になりました。NHKの大河ドラマ「篤姫」や「翔(とぶ)が如く」のロケもここで行われました。

### 愛　郷(あいきょう)

**明治維新は猪進？**

NHK高校講座世界史「ローマ帝国」を視聴。ローマの発展は日本の弥生時代。それからの日本は西洋に「追い着き追い越せ」の懸命の努力があって今日の状態。その原動力は明治維新(猪進)ではなかっただろうか。　(恒見勝則)

**上場庚申供養碑は今**

別府川のほとりに町の資源物集荷所が開設され、それに伴いすぐ近くの上場庚申供養碑のある小山が階段状に整備され明るくきれいになった。元はうっそうと木が茂り、おまけに碑も傾いている状態だったので、地元では刑場跡だの、自殺者の供養塔だのといった噂話が絶えなかった。きれいになって本当によかった。　(中野則子)

**歴史用語解説**（西田　實）

『**浦町**』　江戸時代の漁村を浦。また、藩法上公認された商業地域のことを町といい、漁村に設けられた町場を浦町と呼ぶ。

脇元浦は、思川の下流に位置し、江戸期には大口筋(街道)の鹿児島・重富間は白銀坂の難所があったため、早くから海路の交通が発達し、その発着港として栄えた。延享4年(1747)に六斎市が許可され、浦町ともなった。

松原浦は、江湖川の下流の江湖から地蔵の間に家々がまとまっていた。町に通じる江胡川の橋のたもとと大小路の東側に町門が建っていたが、大小路の折れた町門だけが残っている。

『**登録有形文化財**』　平成8年(1996)の文化財保護法改正により、従来の文化財「指定」制度に加えて、文化財「登録」制度が創設された。登録有形文化財とは、登録された有形文化財のこと。

登録対象は当初は建造物に限られていたが平成17年(2005)の改正により、建造物以外の有形文化財も登録対象となった。登録物件は、近代(明治以降)に建造・製作されたものが主であるが、江戸時代のものも登録対象になっている。姶良町の場合は、白金酒造石蔵、山田の凱旋門、住吉の新照寺、重富小学校の正門が登録有形文化財となっている。

### 編集後記

7号は「歩き・み・ふれる歴史の道　白銀坂」を中心に編集しました。姶良歴史ボランティア協会では、町内の史跡・文化財などの一般的な案内を無料で提供いたします。諸グループのご利用を図っていただければ幸いに思います。

これからも、私たちの活動へのご理解をいただき、ご支援をよろしくお願いいたします。